

デーヴォ ガイド



2024.12.30-2025.1.5

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior
Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II
Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合いましょ。 (2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょ。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い (なるべく短く)
- ④預言の祈り (主の御心を宣言して祈り) をします。

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合いましょ。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょ。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか? (または誉めたいですか?) 1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょ。

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは? (信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか? (感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか? (あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

22:1 御使いはまた、水晶のように輝く、いのちの水の川を私に見せた。川は神と子羊の御座から出て、
22:2 都の大通りの中央を流れていた。こちら側にも、あちら側にも、十二の実をならせるいのちの木があって、毎月一つの実を結んでいた。その木の葉は諸国の民を癒やした。
22:3 もはや、のろわれるものは何もない。神と子羊の御座が都の中にあり、神のしもべたちは神に仕え、
22:4 御顔を仰ぎ見る。また、彼らの額には神の御名が記されている。
22:5 もはや夜がない。神である主が彼らを照らされるので、ともしびの光も太陽の光もいらない。彼らは世々限りなく王として治める。

のろわれるものがないということは、神のさばきが完成されたことを意味します。そこには祝福だけがあります。神様はもともとはこのような世界をおつくりになり、それをサタンが墮落させてしまったのです。私たち人間はみな自分の罪ゆえにサタンに惑わされて、神に背いてしまいましたが、イエス様の十字架の身代わりによって赦されました。そのことが、永遠を決定する絶大な恵なのだということを思い起こしましょう。このような永遠の都に、永遠に祝福されて存在し続けることができるのです。
世の終わりや自分自身の死を思い不安になるときは、天地宇宙と命を創造された主の愛を思い出しましょう。その愛の中に受け入れられてゆくのだと思い、愛の御手に委ねましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



31日 火曜

黙示録



22:6 御使いは私に言った。「これらのことばは真実であり、信頼できます。」預言者たちに霊を授ける神である主は、御使いを遣わして、すぐに起こるべきことをしもべたちに示された。

22:7 「見よ、わたしはすぐに来る。この書の預言のことばを守る者は幸いである。」

22:8 これらのことを聞き、また見たのは、私ヨハネである。私は、聞いたり見たりした後に、これらのことを示してくれた御使いの足もとにひれ伏して、礼拝しようとした。

22:9 すると、御使いは私に言った。「いけません。私はあなたや、預言者であるあなたの兄弟たち、この書のことばを守る人々と同じしもべです。神を礼拝しなさい。」

22:10 また私に言った。「この書の預言のことばを封じてはなりません。時が近いからです。」

22:11 不正を行う者には、ますます不正を行わせ、汚れた者は、ますます汚れた者とならせなさい。正しい者には、ますます正しいことを行わせ、聖なる者は、ますます聖なる者とならせなさい。」

22:12 「見よ、わたしはすぐに来る。それぞれの行いに応じて報いるために、わたしは報いを携えて来る。」

22:13 わたしはアルファであり、オメガである。最初であり、最後である。初めてであり、終わりである。」

22:14 自分の衣を洗う者たちは幸いである。彼らはいのちの木の実を食べる特権が与えられ、門を通して都に入れるようになる。」

22:15 犬ども、魔術を行う者、淫らなことを

行う者、人を殺す者、偶像を拝む者、すべて偽りを好み、また行う者は、外にとどめられる。

22:16 「わたしイエスは御使いを遣わし、諸教会について、これらのことをあなたがたに証した。わたしはダビデの根、また子孫、輝く明けの明星である。」

22:17 御霊と花嫁が言う。「来てください。」これを聞く者も「来てください」と言いなさい。渇く者は来なさい。いのちの水が欲しい者は、ただで受けなさい。

22:18 私は、この書の預言のことばを聞くすべての者に証しする。もし、だれかがこれにつけ加えるなら、神がその者に、この書に書かれている災害を加えられる。

22:19 また、もし、だれかがこの預言の書のことばから何かを取り除くなら、神は、この書に書かれているいのちの木と聖なる都から、その者の受ける分を取り除かれる。

22:20 これらのことを証しする方が言われる。「しかり、わたしはすぐに来る。」アーメン。主イエスよ、来てください。

22:21 主イエスの恵みが、すべての者とともにありますように。

「正しい者には、ますます正しいことを行わせ、聖なる者は、ますます聖なる者とならせなさい。」というのがここでの宣言ですが、それはまさに自分で自分を明かにすることです。神のさばきは明確なものです。私たちに關しては聖徒ですから、いよいよ聖なる者とされましょう。

主はすぐに来られて、万物の最後を迎えます。たとえそれが数十年後であったとしても、振り返るとそれはすぐに感じるでしょう。もしかしたら、私たちの寿命がすぐに終わって、すぐに主とお会いするかもしれません。または主イエスが再臨の

さばき主として来られるかもしれません。この世は人間個人にとって長くはないのです。

ですからむしろ手をこまねいて見ていないで、来てくださいと祈りましょう。それが、自分の人生を数えることであり、行くべきところを明確にして正しい道に歩む動機ともなるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたの中の部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 1日 水曜

ヨハネ



- 1:1 初めにことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。
- 1:2 この方は、初めに神とともにおられた。
- 1:3 すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもなかった。
- 1:4 この方にはいのちがあった。このいのちは人の光であった。
- 1:5 光は闇の中に輝いている。闇はこれに打ち勝たなかった。
- 1:6 神から遣わされた一人の人が現れた。その名はヨハネであった。
- 1:7 この人は証しのために来た。光について証しするためであり、彼によってすべての人が信じるためであった。
- 1:8 彼は光ではなかった。ただ光について証しするために来たのである。

宇宙は大爆発、いわゆるビッグバンによって始まったと思われませんが、それ以前に神様が意志と目的を持って、全てを御計画なさっていました。この神様の御人格そのものがギリシャ語で言うロゴスであり、日本語ではこれを「ことば」と訳しました。

そして読み進めていきますと、「ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。」と14節にあります。すなわちこの「ことば」はイエス様を表すことが分ります。

「ことばは神であった」「すべてのものは、この方によって造られた。」とありますから、ことばであられるイエス様が神であり創造主であることが明確です。なぜならイエス様は御父と同一であられるからです。

このイエス様を証ししたのが、バプテスマのヨハネですが、多くの人々がそれを受け入れなかったことが分ります。「世はこの方によって造られたのに、

世はこの方を知らなかった。…受け入れなかった。」とあるとおりです。

私たちは「この方を受け入れた人々」です。このクリスマス時期に、受け入れなかった人々と同じ日々を送るのではなく、神の子どもとされた特権を感謝しつつ、信じた者の行いをしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 2日 木曜

ヨハネ



1:9 すべての人を照らすそのまことの光が、世に来ようとしていた。

1:10 この方はもとから世におられ、世はこの方によって造られたのに、世はこの方を知らなかった。

1:11 この方はご自分のところに來られたのに、ご自分の民はこの方を受け入れなかった。

1:12 しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとなる特権をお与えになった。

1:13 この人々は、血によってではなく、肉の望むところでも人の意志によってでもなく、ただ、神によって生まれたのである。

1:14 ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから來られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。

1:15 ヨハネはこの方について証して、こう叫んだ。「『私の後に來られる方は、私にまさる方です。私より先におられたからです』と私が言ったのは、この方のことです。」

1:16 私たちはみな、この方の満ち満ちた豊かさの中から、恵みの上にさらに恵みを受けた。

1:17 律法はモーセによって与えられ、恵みとまことはイエス・キリストによって実現したからである。

1:18 いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである。

「ことばが人と」なるとは、神の本質がイエス・キリストに宿っているということです。永遠無限の存在が有限なる世界にとどまるといえるのは、あり得

ないことですが、神様の全能がそれを実現したのです。それだけでなく、「この方は恵とまことに満ちておられた」とあります。そのご人格が神を表わしておられたことが分ります。

そして、モーセを通して与えられた律法を全うしたことは当然ですが、それ以上に恵みとまことを実現されました。恵とは罪の赦しであり、まこととは救いの約束の実現です。

イエス様のすばらしさは、このように日常の言葉では言い表すのが不可能なほど偉大なものです。私たちは、言葉や定義ではなく、体験する必要があります。ここにあらわされているイエス様のすばらしさを体験することを、主に願ってゆきましょう

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



3日 金曜

ヨハネ



1:19 さて、ヨハネの証しはこうである。ユダヤ人たちが、祭司たちとレビ人たちがエルサレムから遣わして、「あなたはどなたですか」と尋ねたとき、

1:20 ヨハネはためらうことなく告白し、「私はキリストではありません」と明言した。

1:21 彼らはヨハネに尋ねた。「それでは、何者なのですか。あなたはエリヤですか。」ヨハネは「違います」と言った。「では、あの預言者ですか。」ヨハネは「違います」と答えた。

1:22 それで、彼らはヨハネに言った。「あなたはだれですか。私たちを遣わした人たちに返事を伝えたいのですが、あなたは自分を何だと言われるのですか。」

1:23 ヨハネは言った。「私は、預言者イザヤが言った、『主の道をまっすぐにせよ、と荒野で叫ぶ者の声』です。」

1:24 彼らは、パリサイ人から遣わされて来ていた。

1:25 彼らはヨハネに尋ねた。「キリストでもなく、エリヤでもなく、あの預言者でもないなら、なぜ、あなたはバプテスマを授けているのですか。」

1:26 ヨハネは彼らに答えた。「私は水でバプテスマを授けていますが、あなたがたの中に、あなたがたの知らない方が立っておられます。

1:27 その方は私の後に来られる方で、私にはその方の履き物のひもを解く値打ちもありません。」

1:28 このことがあったのは、ヨルダンの川向こうのベタニアであった。ヨハネはそこでバプテスマを授けていたのである。

このヨハネは、福音書を書いたヨハネではなく、バプテスマのヨハネです。彼はまだ無名であったイエス様に人々に紹介したのでした。彼ももとに多くの人々が悔い改めのバプテスマを受けに来ていたので、その証言には力がありました。

しかし彼は自分を過大評価していませんでした。彼は単なる「荒野で叫ぶ者の声」であると、自分自身を理解していたのです。正しい信仰を持っている彼は、イエス様の前には奴隷以下の存在であると知っていたのです。「くつのひもを解く」とは奴隷の仕事だからです。

私たちも、自分自身が神の前には小さな存在にしか過ぎないことをよくよく理解しましょう。何か自分が偉い者のように思ったり、有能な者のように思ったり、または成し遂げた者のように思うなら、それは間違いであって、神様からそういうものは認められないことを知しましょう。

私たちがこの世に生きている目的は、自分を救ってくださったキリストを紹介するためですが、本当にキリストを紹介できる人はキリストの絶大な価値を知っている人です。そのような人は当然自分の値打ちなど取るに足りないものを知っているはずで

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



4日 土曜

ヨハネ

1:29 その翌日、ヨハネは自分の方にイエスが来られるのを見て言った。「見よ、世の罪を取り除く神の子羊。」

1:30 『私の後に一人の人が来られます。その方は私にまさる方です。私より先におられたからです』と私が言ったのは、この方のことです。

1:31 私自身もこの方を知りませんでした。しかし、私が来て水でバプテスマを授けているのは、この方がイスラエルに明らかにされるためです。」

1:32 そして、ヨハネはこのように証しした。「御霊が鳩のように天から降って、この方の上にとどまるのを私は見ました。」

1:33 私自身もこの方を知りませんでした。しかし、水でバプテスマを授けるようにと私を遣わした方が、私に言われました。『御霊が、ある人の上に降って、その上にとどまるのをあなたが見たら、その人こそ、聖霊によってバプテスマを授ける者である。』

1:34 私はそれを見ました。それで、この方が神の子であると証しをしているのです。」

1:35 その翌日、ヨハネは再び二人の弟子とともに立っていた。

1:36 そしてイエスが歩いて行かれるのを見て、「見よ、神の子羊」と言った。

1:37 二人の弟子は、彼がそう言うのを聞いて、イエスについて行った。

1:38 イエスは振り向いて、彼らがついて来るのを見て言われた。「あなたがたは何を求めているのですか。」彼らは言った。「ラビ（訳すと、先生）、どこにお泊まりですか。」



1:39 イエスは彼らに言われた。「来なさい。そうすれば分かります。」そこで、彼らについて行って、イエスが泊まっておられるところを見た。そしてその日、イエスのもとにとどまった。時はおよそ第十の時であった。

1:40 ヨハネから聞いてイエスについて行った二人のうちの一人は、シモン・ペテロの兄弟アンデレであった。

1:41 彼はまず自分の兄弟シモンを見つけて、「私たちはメシア（訳すと、キリスト）に会った」と言った。

1:42 彼はシモンをイエスのもとに連れて来た。イエスはシモンを見つめて言われた。「あなたはヨハネの子シモンです。あなたはケファ（言い換えれば、ペテロ）と呼ばれます。」

ヨハネはイエス様が誰であることを知っていました。「世の罪を取り除く神の小羊」とは、ユダヤ教の贖いの羊が念頭にあります。その羊は雛形にしか過ぎず、イエス様を指し示すためであったと正しい理解をしていたことが分ります。

また「聖霊によってバプテスマを授ける者」というのも、イエス様の中心的な役割を理解していることが分ります。罪赦されたクリスチャンは、聖霊に満たされる必要があるからです。

イエス様と日々、親しく交わりましょう。そして罪赦されたことを感謝しつつ、イエス様によって聖霊に満たされ続けましょう。もしもまだ聖霊のバプテスマを体験していないなら、それを主に求めましょう。

また弟子たちはイエス様を会ってすぐに、親しい人にイエス様を紹介しました。私たちも親しい人に紹介しましょう。まだであるなら、近いうちにそれができるように求めましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



5日 日曜

ヨハネ



1:43 その翌日、イエスはガリラヤに行こうとされた。そして、ピリポを見つけて、「わたしに従って来なさい」と言われた。

1:44 彼はベツサイダの人で、アンデレやペテロと同じ町の出身であった。

1:45 ピリポはナタナエルを見つけて言った。「私たちは、モーセが律法の中に書き、預言者たちも書いている方に会いました。ナザレの人で、ヨセフの子イエスです。」

1:46 ナタナエルは彼に言った。「ナザレから何か良いものが出るだろうか。」ピリポは言った。「来て、見なさい。」

1:47 イエスはナタナエルが自分の方に来るのを見て、彼について言われた。「見なさい。まさにイスラエル人です。この人には偽りがありません。」

1:48 ナタナエルはイエスに言った。「どうして私をご存じなのですか。」イエスは答えられた。「ピリポがあなたを呼ぶ前に、あなたがいちじくの木の下にいるのを見ました。」

1:49 ナタナエルは答えた。「先生、あなたは神の子です。あなたはイスラエルの王です。」

1:50 イエスは答えられた。「あなたがいちじくの木の下にいるのを見た、とわたしが言ったから信じるのですか。それよりも大きなことを、あなたは見ることになります。」

1:51 そして言われた。「まことに、まことに、あなたがたに言います。天が開けて、神の御使いたちが人の子の上を上り下りするのを、あなたがたは見るようになります。」

ナタナエルは初め、「ナザレから何か良いものが出るだろうか。」と、イエス様に対して懐疑的でし

た。しかしイエス様は、まず彼を受け入れ認めたのでした。「いちじくの木の下にいる」というのは、祈りや礼拝を表わすからです。当時多くの人はそこを祈りの場としていたようです。

このように懐疑的な人はいるものです。しかし、ナタナエルが後にイエス様の弟子となったように、人の未来と可能性は分らないものです。今はどうあっても、主の可能性を信じてみましょう。そして、イエス様がその人を認めてあげたように、私たちも信じない人の良き面を認めつつ、尊重しつつ伝道しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

